

# 「一生懸命に」・「熱心に」の違いについて\*

－『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて－

趙 恩 英\*\*

(e-mail : choeun215@gmail.com)

## <目次>

- |         |                          |
|---------|--------------------------|
| 1. はじめに | 4. 分析結果                  |
| 2. 先行研究 | 4.1. 「一生懸命に」「熱心に」の文体     |
| 3. 調査概要 | 4.2. 「一生懸命に」「熱心に」と共起する動詞 |
|         | 4.3. 「独自の語」の意味分布         |
|         | 5. まとめ                   |

キーワード: 一生懸命に(Issyoukenmei-ni)、熱心に(Nessin-ni)、出現傾向(Occurrence Pattern)、中頻度語群(Medium Frequency Verbs)、意味分布(Semantic distribution)

## 1. はじめに

本研究は副詞的表現として使われる「一生懸命に」<sup>1)</sup>と「熱心に」について、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)』<sup>2)</sup>(以下、BCCWJと称する)を用いて用例を抽出し、ジャンルでの出現傾向から文体の違いを明らかにし、また、両表現と共起する動詞を中心に検討し、両者の相違点を明らかにするものである。

\* 이 논문은 2019년도 부산외국어대학교 학술연구조성비에 의해 연구되었음.

本研究は韓国日本語学会第38回国際学術発表大会(於中央大学校、2018年9月15日)にてポスター発表したものを修正、加筆したものである。

\*\*釜山外国語大学校、助教授、日本語教育

1) 本研究における「一生懸命に」は、「一生懸命」「一生懸命に」「一所懸命」「一所懸命に」を代表する表記である。

2) BCCWJを用いる理由は、現在のコーパス研究において最も信頼性の高いデータベースだと判断したためである。

「一生懸命に」は、話者の意志を表わす言葉として、日本語学習において早い段階から触れる言葉であり、初級日本語教材に収録され、その習得もそんなに難しくない表現とされている。しかし、作文では「一生懸命に」使用において戸惑いを感じる表現のように思われるが、それは「熱心に」の存在によるのである。金慶恵(2007:502)は、日本語表現教育のために、韓国人日本語学習者の作文に現れる誤用について、文法・語彙・表記の面での間違いを明らかにしている。「066)日本語をねっしんにするからとてもよくなります。(20420012)」のように、「ねっしんに」による誤用の例をあげている<sup>3)</sup>。

また、日本語作文教材の『日本語らしい日本語作文』(혼다2007:112)には、以下の例が挙げられており、「一生懸命に」と「熱心に」について、「一生懸命に」は、自分の強い意志を表現することばであるとして、「熱心に」は、あることに集中する姿勢を客観的に表現することばであると記述されている。

「授業の時間に雑談禁止」熱心に受けることにしました。

→「授業の時間に雑談禁止」、一生懸命受ける(聴く)ことにしました。

しかし、これらの説明で二つの表現が使い分けられるのか疑問である<sup>4)</sup>。日本人の持つ直感・内省として、「熱心に」は書き言葉的なことばであり、「一生懸命に」は話し言葉的なことばであると言われているが、その根拠が示されているものはあまり見られない。また、「一生懸命に」と「熱心に」は、韓国語では「열심히」と訳されるため、韓国人日本語学習者が適切に使い分けをするにはやや紛らわしい表現だと思われる。

そこで本研究では日本語教育の現場での類義語の指導のために、両表現について文体の違いや共起する動詞の相違を明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究

「一生懸命に」と「熱心に」について、辞典での記述を確認すると、以下のとおりである。

3) 金(2007:502)は、「ねっしんにする」の訂正案として、「勉強する」を提示している。

4) 「授業の時間に雑談禁止」熱心に受けることにしました。・授業：【표기】→「授業」・熱心：【표기】→「一生懸命」「一所懸命」\*熱心：어떤 일에 집중하는 자세를 객관적으로 표현 \* 一生懸命(一所懸命): 자신의 강한 의지를 표현<一生懸命にする>、<一生懸命になる> 혹은 부사적 용법으로서 <一生懸命勉強する>와 같이 쓰인다. (혼다, 2007) p.112.

いっしょうけんめい【一生懸命】(名・形動) [文] ナリ [「一所懸命」から出た語]

①命がけで物事をする。全力をあげて何かをするさま。副詞的にも用いる。「一(に)努力する」「一がんばります」②引くに引けないせっぱつまった状況。せとぎわ。

「こりやもう九郎兵衛が一。舅どの勘忍さつしやれ／歌舞伎・夏祭」

ねっしん【熱心】(名・形動) スル [文] ナリ

物事に情熱をこめて打ちこむこと。心をこめて一生懸命すること。また、そのさま。「一に勉強する」「一な練習態度」「そんなに放蕩ほうとうに一するだらう／当世書生気質 逍遙」 [派生] 一さ(名) (『大辞林 第三版』小学館)

上記の記述から「一生懸命に」は命がけで何かをしたり、全力をあげて何かをすることであり、「熱心に」は情熱や心をこめて何かをするということが分かる。しかし、「心をこめて何かをする」、また、「全力をあげて何かをする」ということは、実は同じことだと思ふ。心をこめて何かをする際、全力をあげ、全力をあげて何かをする際、心がこめられるからである。つまり、辞典における両表現の意味記述から、両者を使い分けするにはあまり有効ではないと思われる。両表現の意味は繋がっているように思われるため、その類似性から相違点を見極めることは難しい。

次に、『現代副詞用法辞典』での「一生懸命に」の記述を確認しよう。

いっしょうけんめい・いっしょけんめい[一生懸命・一所懸命]

- ① 彼女は子育てにいっしょうけんめいだ。
- ② 部員のいっしょけんめいな態度は好感がもてる。
- ③ 彼女はどんな仕事でもいっしょうけんめいにやる。
- ④ (新入社員が)いっしょうけんめい頑張ります。

【解説】全力をあげて行動する様子を表わす。プラスイメージの語。①は述語、②は名詞にかかる修飾語、③④は述語にかかる修飾語の用法である。「いっしょけんめい」は「いっしょうけんめい」より文章語的で、日常会話には主に「いっしょうけんめい」のほうを用いる。人間や動物の行動について用い、無生物についてはふつう用いない。ある好ましいことに積極的にかかわって行動する様子を表し、熱意の暗示がある。好ましくない状態からの脱却に熱中する場合には用いないことが多い。

×ゲリラたちは一生懸命抵抗した。

→ゲリラたちは精いっぱい抵抗した。

「いっしょうけんめい」は「けんめい」や「いっしんに」「ひたすら」などに似ているが、「けんめいに」は切迫感の暗示が強く、日常の挨拶などにはあまり用いられない。

「いっしんに」は熱中のしかたが静かでひたむきな暗示がある。「ひたすら」は他のことをしようとしない頑固さと継続の暗示がある。

×(新入社員が)懸命に頑張ります。

一生懸命仕事をする。(自分の能力を総動員する)

一心に仕事をする。(他のことには耳を貸さない)

? 彼女は失踪した夫の帰りを一生懸命待った。

→彼女は失踪した夫の帰りをひたすら待った。(『現代副詞用法辞典』:pp.57-58.)

上記の記述から、「一生懸命」はナ形容詞として使われ、副詞的な表現としての用法を持ち、人間が全力をあげて行動する際に用いられる、また、プラスイメージの語であることが確認できる。「熱意の暗示がある」ということから「熱心に」との類似性が窺えるが、「熱心に」との比較が記述されておらず、その使い分けについても言及されていない。

以上のように、両表現の辞典での記述の欠如から、両者の使い分けの手助けが必要ではないかと思われる。そこで、BCCWJにおける用例を用いて両表現の違いについて検討する。

### 3. 調査概要

BCCWJからの用例の抽出はオンライン上のアプリケーションである『中納言』<sup>5)</sup>からし、用例の検索は文字列検索で行った。

検索の際、「一生懸命に」は、<一生懸命><一所懸命><いっしょうけんめい><イッショウケンメイ>をキーワードにし、「熱心に」は、<熱心に><ねっしんに><ネッシンに>をキーワードにした<sup>6)</sup>。

調査方法<sup>7)</sup>は、趙(2014a, 2014b, 2015)における方法を用いるが、大きく2つの観点で調査を行う。

- 5) 2011年8月、国立国語研究所は、Webアプリケーションの『中納言』を公開した。『中納言』から、BCCWJの用例が検索でき、検索は、短単位・長単位・文字列の3つの方法がある。
- 6) <いっしょうけんめい><イッショウケンメイ>については今回検討の対象としなかった。この点については今後の課題にしたい。
- 7) 現在、類似関係にある表現の研究において、NLB (NINJAL-LWP for BCCWJ) を採択する方法が目につく(姜晃完2014)。しかし、本稿でNLBを採択しなかったのは、以下のように、「一生懸命」「熱心に」の共起関係を検討する際に問題があるためである。例えば、NLBを用い、「懸命」のコロケーションを確認すると、頻度1位は「懸命にいる」となる。用例を詳しく検討すると、「いる」は本動詞ではなく補助動詞が多い。(例1)けれども誰一人不平を言うものはない。皆一生懸命にやっている(中山吉弘著(2005)『熱きバトルのはて』p.210)。(例2)私たちは一生懸命に働いています(Yahoo!ブログ,2008, 乗り物)。(例1)と(例2)において、「懸命」と共起する動詞は「やる」「はたらく」であるが、NLBでは「いる」と把握してカウントしている。また、「熱心に」にも同じ結果が見られる。「熱心に」について、「熱心に+イ形容詞」が8例出

まず、両表現の文体については、BCCWJのジャンルごとに現れる出現傾向と「書籍」「ベストセラー」の下位区分である「文学」における「会話文」と「地の文」の出現傾向から検討する。

次に、両表現の相違点について、共起する動詞の高頻度語群を確認し、その後、中頻度語群を中心に検討していく。中頻度語群とは、趙(2014a)で定義している、「副詞と共起する述語を頻度順に並べ、その順位から異なり語数の累積の比率により、高頻度・中頻度・低頻度に分けることができるが、そのうちの中頻度に属する語群のこと」である<sup>8)</sup>。また、論文では、趙(2014a:39)の中頻度語群の「独自の語」を抽出するが、高頻度・中頻度・低頻度を数値的に決める方法として、伊藤(2009)の「量的語彙構造分析法」の「使用度数の算出法」を採用する<sup>9)</sup>。

調査項目は、①BCCWJのサブコーパス(ジャンル)と、「文学」での「地の文」と「会話文」における出現傾向から、「一生懸命に」「熱心に」の文体の差を明らかにする、②共起する高頻度の動詞の出現傾向を確認する、③両表現と共起する動詞の中頻度語群の「独自の語」の意味分布から両表現の特徴を明らかにすることである。

## 4. 分析結果

### 4.1. 「一生懸命に」「熱心に」の文体

この節では、「一生懸命に」と「熱心に」の文体について検討する。各ジャンル別の2つの表現の出現頻度をまとめると表1ようになる。

---

たが「熱心によい」「熱心に多い」「熱心に新しい」「熱心に早い」「熱心に細かい」「熱心に親しい」「熱心に近い」の7種類の形容詞と共起すると結果が出た。しかし、実際の用例は、(例3)それから熱心によく勉強してますね。(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)(例4)江戸中期の医師で日本の古方漢方の始祖と言われる吉益東洞は、当時の漢方医としては誰よりも熱心に多くの漢方学の書を読み、研究した人であるという。(金沢 英子 (1997)『鍼を打つ人竹村文近』p.492) (例5)相手は熱心に新しい学問をとりいれて、その結果、何倍も大きい清国に勝った。(陳舜臣著(2001)『中国の歴史』p.913)である。(例3)(例4)(例5)について、「熱心に」は形容詞と共起するとしているが、「熱心に」は「勉強する」「読む」「とりいれる」と共起しているのである。このように、検索された用例の結果をそのまま採用するには問題があると判断し、NLBを用いた研究は今回採用しなかった。

8) 中頻度語群を中心に検討する理由は、田中(1978, pp.62-63)が指摘しているように、類義語と共起する高頻度の述語というのは、類義語とよく共起するものである一方、他の(検討対象語が出現しない)文においてもよく使われる(元々使用頻度の高い)述語である可能性があるためである(趙2014, p.35)。

9) 伊藤(2009, pp.181-182)は、「高頻度・中頻度・低頻度の基準は、延べ語数に占める割合で6:3:1とした。それを累積比率で示すと、0%から60%までが高頻度、60%を超えて90%までが中頻度、90%を超えて100%までが低頻度ということになる。6:3:1の比は筆者の経験から設定したものである」と述べている。本研究は伊藤の基準に従うが、「使用範囲の内容」の範囲列が異なる(趙2014:39)。

〈表1〉「一生懸命に」「熱心に」のジャンル別出現傾向

	「一生懸命に」		「熱心に」	
	頻度	比率	頻度	比率
書籍 <sup>10)</sup>	1309	51.3%	722	70.0%
雑誌	91	3.6%	28	2.7%
新聞	26	1.0%	17	1.7%
白書	2	0.1%	2	0.2%
ベストセラー	146	5.7%	77	7.5%
知恵袋	285	11.2%	23	2.2%
ブログ	383	15.0%	57	5.5%
国会会議録	254	9.9%	53	5.1%
広報紙	46	1.8%	50	4.9%
教科書	10	0.4%	2	0.2%
韻文	0	0.0%	0	0.0%
合計	2552	100.0%	1031	100.0%

表1から「一生懸命に」は「知恵袋」「ブログ」「国会会議録」に「熱心に」より若干多く現れることが確認できた<sup>11)</sup>。質問と返答で構成される「知恵袋」と国会での演説や質疑応答を記録している「国会会議録」や、改まった文章よりはやや話し言葉的と言われる「ブログ」に現れることから「一生懸命に」が「熱心に」より話し言葉的であると言える。

次に、表1について、ジャンルごとに両表現の出現頻度の合計を100%とし、それぞれまとめると表1-1のようになる。

〈表1-1〉「一生懸命に」「熱心に」のジャンル別出現傾向

	「一生懸命に」		「熱心に」		合計
	頻度	比率	頻度	比率	
書籍	1309	64.5%	722	35.5%	100%
雑誌	91	76.5%	28	23.5%	100%
新聞	26	60.5%	17	39.5%	100%
白書	2	50.0%	2	50.0%	100%
ベストセラー	146	66.5%	77	34.5%	100%
知恵袋	285	92.5%	23	7.5%	100%

10) 「書籍」の頻度は、「出版・書籍」と「図書館・書籍」を合わせた数値である。

11) 「書籍」と「ベストセラー」には、「総記」「文学」「歴史」など多様なジャンルが下位区分されており、「雑誌」には、記事や広告など性質の違う文が入っている。「新聞」の場合にも、さまざまな記事や広告で構成されている。

ブログ	383	67.0%	57	13.0%	100%
国会会議録	254	82.7%	53	17.3%	100%
広報紙	46	47.9%	50	52.1%	100%
教科書	10	83.3%	2	16.7%	100%
韻文	0	0.0%	0	0.0%	100%

鄭・小池・船橋(2009:8)は、BCCWJについて、大きく音声言語(国会会議録)と文字言語(「知恵袋」「書籍」)に分けることができるとし、「国会」は、あらたまった場でのフォーマルな発話であり、「知恵袋」は、個人が質問を投げ掛け、ある個人が回答を寄せるインターネット掲示板であるとしているが、表1-1の結果から、「一生懸命に」は、他のジャンルより話し言葉的なジャンルである「知恵袋」「国会会議録」に「熱心に」より出現が多い。このことから、「熱心に」より話し言葉であることが言える。

また、「書籍」と「ベストセラー」の下位区分の一つである「文学」における「地の文」と「会話文」での出現傾向は、以下の表2のようにまとめられる。

<表2> 「文学」の「会話文」と「地の文」における出現傾向

	「一生懸命に」		「熱心に」	
	頻度	比率	頻度	比率
会話文	125	32.6%	17	5.3%
地の文	258	67.4%	304	94.7%
合計	383	100.0%	321	100.0%

表2により、「会話文」に「一生懸命に」は32.6%、「熱心に」は5.3%が現れ、約6倍程度、「一生懸命に」が多く現れたことから、「一生懸命に」の方がより話し言葉的であることが確認できた。

実際に「会話文」に現れた「一生懸命に」は、例(1)の「やる」と共起するのが72件、例(2)の「はたらく」と共起するのが40件、例(3)の「がんばる」と共起するのが23件、「する」と共起するのが、55件現れた。

一方、「熱心に」の場合は、「する」との共起が8件、例(4)の「とりくむ」と共起するのが5件、例(5)(6)の「さがす」「きく」との共起が3件など現れた。

(1)A子は、日弁連の懲戒委員会でつぎのように陳述した。「そんな人がいつまでも上において、依頼者のために一生懸命やってくれる弁護士さんが全然育たなかったら、一般

市民はただ泣寝入りで、何れも法律がわからないから弁護士さんに頼むと思うのです。

(LBa9\_00075)

- (2) 「私たちカタルーニャ人は勤勉で一生懸命に働いている。ところが苦勞して稼いだ外貨はカタルーニャには落ちずに、フラメンコばかり踊っている南部のアンダルシアの人たちに奪われている」と二十九歳のOLは不満をぶちまけた。(LBg3\_00110)
- (3) 「おかあちゃん、わたしね、悪役だからしかたがないんだよ。(中略)おかあちゃん言ったじゃない。『何でも一生懸命やらないとお金は入らないよ』って。わたし今、一生懸命なんだ、一生懸命が**ん**ばるからね」母はわたしが女子プロレスへ行くと言い出した時、すでに覚悟を決めていたようだ。(LBf7\_00039)
- (4) 「人力飛行機が飛んだところで、何の役にも立たない。こんな挑戦に、なぜ学生たちはあそこまで熱心に取り組むのか？」聞かれた木村は、表情一つ崩さずに、穏やかな口調で答えた。(PB42\_00231)
- (5) 「誰だい？知り合いかい、ホームズ？」「ルパート・ルウェリン。探偵としての素質に優れた勇敢な少年で、ベイカー街遊撃隊の一人だ。熱心に犯人を**捜**し続ける能力を持っていた。ところが今、ぼくのとんでもない不注意が原因で…」(LBg9\_00209)
- (6) 源氏は笑いながら、「熱心に聞いていてくれない人には、外から身にしむ風も吹いてくるとでしょう」といって、源氏は和琴をおしやってしまった。(OY13\_03195)

以上の結果から、「一生懸命に」の方が、「熱心に」より話し言葉的であることが確認できた。

#### 4.2. 「一生懸命に」「熱心に」と共起する動詞

この節では、両表現の相違を明らかにするため、「一生懸命に」「熱心に」と共起する動詞について検討を行う。表3は、両表現と共起する動詞について、出現頻度の高い順にまとめたものである。

<表3> 「一生懸命に」「熱心に」と共起する動詞について

順位	「一生懸命に」			「熱心に」		
	動詞	頻度	比率	動詞	頻度	比率
1	する	447	19.8%	する	257	25.1%
2	やる	369	16.4%	とりくむ	72	7.0%
3	はたらく	175	7.8%	きく	46	4.5%
4	がんばる	118	5.2%	よむ	43	4.2%



5	なる	73	3.3%	なる・やる	31	3.0%
6	いきる・かんがえる	66	2.9%	すすめる	26	2.5%
7	つくる	46	2.0%	かたむける	25	2.4%
8	さがす	41	1.8%	みる	24	2.3%
9	とりくむ	38	1.7%	おこなう	22	2.1%
10	かく	28	1.2%	ききいる	18	1.8%

表3から、両表現と共起する動詞は「する」が最も多く、「一生懸命に」は「やる」「はたらく」「がんばる」「なる」「いきる」「かんがえる」順に現れ、「熱心に」は「とりくむ」「きく」「よむ」「なる」「やる」「すすめる」順に現れた。共通して現れた動詞は「する」「やる」「なる」「とりくむ」などである。

これらの共通の動詞の出現比率を合わせると、「一生懸命に」は41.5%、「熱心に」は38.1%となる。両表現は近い比率が見られ、少ない語彙が高い頻度で現れる表現であることが分かる。また、出現比率の合計の近さから、両表現は類似性が高い表現であることが言えよう。

「一生懸命に」には「がんばる」「かんがえる」「いきる」などのように、態度や思考活動を表わす表現が現れた。一方、「熱心に」には「きく」「よむ」「みる」「ききいる」などのように、聞く・読むという言語活動や視覚などの表現が現れた。

これらの動詞から、「一生懸命に」は、ある事柄における動作主の主体的な行動や姿勢に現れ、「熱心に」は、物事に対し、反応したり、働きかけたりする表現や感覚的な表現に現れることが分かった。

また、出現頻度の1位の「する」は、基礎語彙の可能性が多いため<sup>12)</sup>、両表現と共起する「する」だけの特徴を見いだすためには、「する」の前に来る前接語を検討する必要がある。「する」の前接語について、頻度2以上のものを確認し、それぞれの表現に現れたものは、以下の通りである(数値は出現頻度である)。

「一生懸命に」:

努力(を)52、勉強49、仕事(を)38、練習(を)29、説明15、応援11、回答(を)6、説得5、育児(を)4、集中4、看病(を)3、弁解3、想像3、世話(を)3、指導(を)3、質問3、活動(を)3、お話2、ガイド(を)2、プレ-2、介護2、経営2、稽古2、苦勞2、対応2、没頭2、発言2、背伸び2、並べ替えを2、専念2、相談2、宣伝2、掃除2、演奏2、援護2、議論2、貯金2、学習2、解決2、協力2、話を2、吸収2

12) 類似表現と共起する動詞の高頻度には「する」と「なる」の出現が多いが、「する」と「なる」は、田中(1978:62-63)の指摘のように、元々使用頻度の高い述語であることが確認できた。

「熱心に」：

研究14、説明(を)11、勉強(を)9、支持6、指導5、推進5、活動5、説得4、アドバイスを3、見物3、練習(を)3、仕事を3、従事3、質問(を)3、参加3、聴講3、学習3、懇願2、見学2、勧誘2、奮闘2、紹介2、信仰2、議論(を)2、展開2、提唱2、主張2、支援2、集中2、賛成2、撮影2、出席2、会話2、吸収2

両表現に共通的に現れたものを『分類語彙表増補改訂版(以下、『分類語彙表』と称する)』の意味で分けると、「集中(合体・出会い・集合など)<sup>13)</sup>」「勉強・練習・学習(学習・習慣・記憶)」「説明(説明)」「質問(問答)」「議論(会議・論議)」「仕事(労働・作業・休暇)」「活動(行為・活動)」「説得(交渉)」などである。それぞれの表現に出現する「する」の前接語の意味分布は、「一生懸命に」の場合、「想像(判断・推測・評価)」「解決(決心・解決・決定・迷い)」「苦勞(処世・出處進退)」「貯金(所有)」「掃除(掃除など)」のように、判断など思考的なものや具体的で日常的な行為である。

一方、「熱心に」には「推進(突き・押し・引き・すれなど)」「展開(進歩・衰退)」「研究(研究・試験・調査・検査など)」「提唱・主張(言論)」「支持・賛成(賛否)」「信仰(信仰・宗教)」「懇願(請求・依頼)」のように、話者の主張、意志、信仰などのものである。

以上、両表現と共に起る動詞の出現傾向から、両表現は異なる事態に現れることが明らかになった。

#### 4.3. 「独自の語」の意味分布

この節では、「一生懸命に」と「熱心に」と共に起る動詞について「使用度数の算出法」により、「独自の語」を抽出した。下記の表4と表5は、両表現それぞれの「(使用)範囲・度数分布」をまとめたものである。

<表4> 「一生懸命に」の「(使用)範囲・度数分布表」

延べ語数		『BCCWJ』範囲 (補正前)		『BCCWJ』範囲 (補正後)		異なり語数		
頻度層	度数	累積比率	共通 動詞	固有 動詞	共通 動詞	固有 動詞	合計	比率

13) 括弧は、『分類語彙表』の分類項目のことである。

高頻度	447~118	0%~49.1%	4	0	7	1	8	2.6%
	73~46	~60.3%	3	1				
中頻度	41~17	~70.2%	8	1	60	<b>57</b>	117	37.9%
	16~8	~80.3%	20	3				
低頻度	7~2	~91.8%	32	53				
合計	1	~100.0%	28	156	28	156	184	59.5%
合計	2252		95	214	95	214	309	100.0%

<表5> 「熱心に」の「(使用)範囲・度数分布表」

延べ語数			『BCCWJ』範囲 (補正前)		BCCWJ』範囲 (補正後)		異なり語数	
頻度層	度数	累積比率	共通 動詞	固有 動詞	共通 動詞	固有 動詞	合計	比率
高頻度	258~26	0%~49.4%	7	0	11	1	12	6.4%
	25~15	~59.6%	4	1				
中頻度	12~8	~69.3%	8	2	48	<b>22</b>	70	37.0%
	7~4	~81.0%	18	6				
低頻度	3~2	~89.6%	22	14				
合計	1	~100.0%	36	71	36	71	107	56.6%
合計	1031		95	94	95	94	189	100.0%

表4と表5の斜めの数字は、抽出された「独自の語」であり、以下のように、「一生懸命に」の「独自の語」は57語、「熱心に」の「独自の語」は22語である。

「一生懸命に」の「独自の語」：

あいする、あける、あやす、いれる、うえる、うごく、うめる、うる、おいかける、おう、おす、おっかける、おぼえる、おもいだす、およぐ、かかる、かくす、かける、ききとる、くりかえす、こうじる、こころみる、ささえる、しぬ、しぼる、すぎる、すごす、すすむ、たちむかう、たのしむ、ためる、つかう、つく、つくす、つつく、できる、となえる、なおす、なだめる、なめる、ならべる、にげる、ねむる、のばす、のぼる、はかる、はこぶ、はしりまわる、はしる、はる、ひきとめる、ひく、ひっぱる、みせかける、みつける、やく、やりとげる(57語)

「熱心に」の「独自の語」：

いいよる、うなずく、かたりあう、かよいつめる、かよう、さそう、しめす、しんじる、たずねる、のぞきこむ、はなしあう、はなしこむ、ほおばる、まつ、まなぶ、みいる、みまもる、もつ、もとめる、もむ、よびかける、ろんじる(22語)

これらの「独自の語」を『分類語彙表』によって意味分類をすると表6のようになる。

表6から、「独自の語」が現れる意味分布の出現比率を見ると、「抽象的關係」部門と「自然現象」部門には「一生懸命に」の方がやや多く現れ、「熱心に」は「人間活動」部門にやや多く現れた。

「抽象的關係」部門について、「一生懸命に」の「独自の語」は、中項目「作用」「時間」「空間」「量」に現れ、「熱心に」の「独自の語」は、「存在」「様相」「作用」に現れた。詳細な中項目の内容は以下の通りである。

<表6> 「一生懸命に」「熱心に」の「独自の語」の意味分布

意味分布		「一生懸命に」		「熱心に」		
部門	中項目	頻度	比率	頻度	比率	
抽象的關係	2.12××	存在		2	2.4%	
	2.13××	様相		8	9.4%	
	2.15××	作用	78	44.8%	14	16.5%
	2.16××	時間	4	2.3%		
	2.17××	空間	4	2.3%		
	2.19××	量	2	1.2%		
		小計	88	50.6%	24	28.3%
人間活動	2.30××	心	45	25.9%	33	38.8%
	2.31××	言語	2	1.2%	2	2.3%
	2.33××	生活	5	2.8%	2	2.3%
	2.34××	行為	4	2.3%		
	2.35××	交わり	9	5.2%	12	14.1%
	2.36××	待遇	5	2.8%	10	11.8%
	2.37××	経済	6	3.5%	2	2.4%
	2.38××	事業	8	4.5%		
	小計	84	48.2%	61	71.7%	
自然現象	2.57××	生命	2	1.2%		
		小計	2	1.2%		
総計		174	100.0%	85	100.0%	

「一生懸命に」の「独自の語」は、「作用／走り・飛び・流れなど」に例(7)の「走る」が現れ、ある目的に向っての行動を表し、「作用／動き」に例(8)の「うごく」が現れ、人の行動を表している。また、「作用／時間」に例(9)の「すごす」が現れ、時間の過ごし方を表し、「作用／空間」に例(10)の「たちむかう」が現れ、人に対する姿勢を表している。

(7)健康と減量が目的だったが正直に言ってジョギングはあまり楽しくない。何か目的のため

だけに一生懸命走っているようだった。それでも走って汗を流した後は爽やかな気持ちになったので長く続いたのだと思う。(PB42\_00116)

(8)そして、「風邪をこじらせないように。呼吸困難や熱が出たら、すぐ大学へ電話して下さい。アキレス腱伸ばしと深呼吸の訓練をするように。一生懸命動いてね」と、やさしく言われた。(OB6X\_00025)

(9)たとえ彼氏でも好きな人でも、その人は有意義に過ごしてるのにあなたは依存するんですか？それってすごく重いですよ。逆に一人でも楽しそうに毎日一生懸命過ごしてる女の人を見ると、休み中やることなく携帯見てる子より何倍も綺麗です。(OC09\_15047)

(10)海外で手痛く挫折したもののレーサー復帰を目指す神崎が大人への不信感を抱く子供たちと触れあうことで、自らのあり方や可能性を見いだしていく。子供たちにコケにされながらも一生懸命立ち向かう次郎役の木村が新鮮。子役と闘うスターだ。(PN5a\_00022)

一方、「熱心に」の「独自の語」は、「作用／出沒」に例(11)の「しめす」が現れ、興味を示していることを表し、「作用／様相」に例(12)の「はなしこむ」が現れ、人に話していることを表している。また、「作用／通過・普及など」に例(13)の「かよう」が現れ、人の行動を表している。「作用／突き・押し・引き・すれなど」に例(14)の「もむ」が現れ、ある対象についての人の行動を表している。

(11)私の成形手術の時には母がつき切りで看護してくれたが、こうしたベテランの看護婦さんに見守られているだけでも「命なりけり」の感を深く感じたのである。さらに病棟の看護婦の中でかなり熱心に詩に興味を示しているF さんがいた。(PB39\_00189)

(12)それぞれ馬の手綱をとり、熱心に話しこみながら歩いている二人は、自分たち以外の人間がいることに気づいていないらしく、ジェインはしばらくそれと知られずに二人を?察することができた。(PB49\_00392)

(13)黄はどうやらそのホステスに惚れて、熱心にそのキャバクラに通っていたらしい。(PB59\_00741)

(14)僕が2歳になるまで、母は毎日、熱心に心臓のあたりを揉んでくれたそうです。僕の手のサイズが大きくなるにつれて、今度は両親や祖母の首筋や肩を揉む回数が増えました。(LB12\_00029)

次に、「人間活動」部門において、「一生懸命に」は、「心／学習・習慣・記憶」

に例(15)の「おぼえる」が現れ、人の記憶を表し、「心／思考・意見・疑い」に例(16)の「しぼる」が現れ、人の思考を表している。また、「行為／才能」に例(17)の「できる」が現れ、人の能力を表し、「事業／炊事・調理」に例(18)「やく」が現れた。さらに、「交わり／奉仕」に例(19)の「つくす」が現れた。

(15)仕事はポスターの整理から始まった。「懺悔」「淫靡」といった「難しい漢字」を一生懸命覚えた。(PN1g\_00004)

(16)おじさんは、がっかりしています。「おいで、おいでをさせたら、どうかな。」と、トムがいました。おさやくさんを、あつめてやりたいきょうりゅうは、小学生たちにむかって、前足をふりました。トムは、いっしょうけんめい、ちえをしぼっています。(LBjn\_00013)

(17)女から見て男のどんなところが、あるいはどんな時が男らしい、かっこいいと思いますか？例えば喧嘩が強い＝男らしいのとは違うように・・・外見がかっこいいという極論は止めて下さい嘘をつかず誠実であること。どんなことに対しても潔いこと。男だからこそ優しいというのがかっこいい。夢ももっていたり、目標に向かって一生懸命努力出来る人であること。(OC09\_02554)

(18)散歩しながら、両殿下は熱心にボストンやアメリカに関して質問されたそうです。一回りしてリビングに戻られたころ、甥は得意のブルーベリーのパンケーキを一生懸命焼いていましたが、(LBn2\_00001)

(19)しだいに赤ん坊が成長して、片言でものを言ったり、はいはいしたりし始めると、ますます可愛さは募った。まめに衣類を縫ってやったり、おいしいビスケットを焼いてやったり、女はすっかり母親気分で、子供のために一生懸命つくした。(OB5X\_00168)

一方、「熱心に」の「独自の語」は、「心／欲望・期待・失望」に例(20)の「もどめる」が現れ、人の期待を表し、「心／見る」に例(21)(22)の「みいる」「みまもる」が現れ、ある対象に対する凝視などを表し、「待遇／命令・制約・服従」に例(23)(24)の「よびかける」「さそう」が現れ、ある対象についての働き掛けを表している。

(20)良いストレスとは？私たちの多くはストレスを避けようとするが、その一方で日常茶飯事あるいはレクリエーションの一部として、ストレスとなるできごと立ち向かい、克服することに、挑み、楽しむことを熱心に求める人もいる。(LBi4\_00014)

(21)吹き替えなし、フランス語の字幕もなのまま映し出される『雨月物語』『山椒太夫』『生きる』などを、若者たちは熱心に見入っていた。(PM11\_00323)

(22)ドジソンは写真を見たが無言だった。部屋の隅からは、訊問係が熱心にその?子を見守っていた。(LBb9\_00033)

(23)クリスマスのあと、Ferandoさんは英語とスペイン語でメールを送ってきて、「スペイン語を覚えて、お話ししよう」と熱心に呼びかけてきました。(OY14\_37503)

(24)「トラベルミステリー愛好会」といっても、まだ二人が一緒に旅行したことはない。高沢が熱心に誘っていたが、親許から通学している衣子には、男と一緒においそれと旅行へ出られない。(LBc9\_00152)

以上のように、「一生懸命に」は、思考や日常の行動に多く、「熱心に」は、ある対象に対する行動や働き掛けの行動が多い。

また、「自然現象」部門における「一生懸命に」の「独自の語」は、「生命／死」に例(25)(26)の「死ぬ」が現れたが、普段の人の状態の変化を表しているよりは、主体の物事に関する姿勢を表している。

(25)そう考えてから、あまりに自分に都合のいいことだと次郎は考える。許すも許さないもない。ただ生まれてきて死んでいだけなのである。一生懸命に生きて、一生懸命に死んでいくのだ。(PB1n\_00025)

(26)こうして波から波の間を走っている自分も、その生きもののうちの一個にすぎないのだと、次郎は思う。魚やほかの生きものとなら変わりなく自分も一生懸命に生きて、一生懸命に死んでいく。(PB1n\_00025)

以上、「独自の語」の分析を通じ、「一生懸命に」と「熱心に」の違いについて検討した。

最後に、今回の検討において、用例から興味深い現象が見られた。それは、両表現を修飾する副詞の出現傾向が異っている点である。「一生懸命に」と「熱心に」の前に現れる副詞の数は、「熱心に」の方が多く、その副詞の種類は程度副詞である。「一生懸命に」は、全体の2.2%である56件の副詞が現れたが、「熱心に」は、全体の19.4%である200件の副詞が現れ、約10倍多く他の副詞との共起が多いことが確認できた。例(27)は、「非常に」が「熱心に」を修飾している例文であり、例(28)は、「とても」が「熱心」を修飾している例文である。程度副詞である「非常に」と「とても」は「熱心に」の程度を強調している働きをしている。

(27) 彼らは、勤務時間中は非常に熱心に働き、終業時間までにきっちり終わらせて、家族のために帰ります。(OC12\_01765)

(28) 「皆さん、とても熱心に取り組んでいますよ」と、苗穂地区交通安全運動推進委員会の■■■■会長は話します。(OP00\_00006)

「熱心に」は、上記の「非常に」「とても」以外に、「あまりに」「もっとも」「大変」「かなり」「一番」「いつも」「ますます」「きわめて」「ずいぶん」「ひどく」「急に」「本当に」などが現れ、「熱心に」の程度のはなはだしさを増している<sup>14)</sup>。

一方、「一生懸命に」の場合、「熱心に」と同様に例(29)の「ものすごく」、「もっとも」「本当に」のように程度副詞の出現が見られたものの、例(30)の「ただ」と例(31)の「いくら」のように、現状況について限定する副詞の修飾も多かった。「一生懸命に」を修飾する副詞は、「あんなに」「いくら」「いつも」「とにかく」「もっと」「本当に」「あまり」「あれだけ」「あんまり」「いま」「こうやって」「すぐに」「ものすごく」などのように、「熱心に」を修飾する副詞より程度副詞の出現は少ないことが分かった。

(29) 研究に人を送り出すのは営業所のノルマのようで、研修中至れり、尽くせりでした。正式に働く前に抜けたのですが、担当の人はものすごく一生懸命引きとめていました。(OC03\_01243)

(30) 非常にいつかということはなかなか難しい状況で、ただ一生懸命やらせていただいております。(OM46\_00001)

(31) 最後の方は邪魔に思われてると感じておったんでしょ。いくら一所懸命やっても代が変われば、そんなもんやと。(PB35\_00400)

なぜ、「熱心に」には程度副詞の修飾が多く現れるのだろうか。「全力をあげる」「心を込めて何かをする」ということは物事に対する主体の姿勢は、「熱心に」より「一生懸命に」の方が強いため、「熱心に」は、ある事柄の程度を強調する必要が生じたのではないかと思われる。

14) 非常に(17)、とても(12)、あまりに・もっとも(11)、大変(9)、かなり(6)、一番(6)、いつも(4)、ますます(4)、きわめて(3)、ずいぶん(3)、ひどく(3)、急に(3)、本当に(3)などである。



## 5. まとめ

本研究では、「一生懸命に」と「熱心に」の相違点について、BCCWJを用い、ジャンルにおける出現傾向から文体の違いを明らかにし、また、両表現と共起する動詞について、中頻度語群の「独自の語」の意味分布から特徴を明らかにした。今回の検討で明らかになったことは以下の通りである。

①「知恵袋」「ブログ」「国会会議録」における出現傾向と、「文学」の「会話文」における出現傾向から「一生懸命に」の方が「熱心に」より話し言葉的である。

②両表現と共起する動詞は「する」が最も多く、「一生懸命に」は「やる」「はたらく」「がんばる」「なる」「いきる」「かんがえる」順に現れ、「熱心に」は「とりくむ」「きく」「よむ」「なる」「やる」「すすめる」順に現れる。共通的に現れた動詞は「する」「やる」「なる」「とりくむ」などである。これらの共通の動詞の出現比率を合わせると、「一生懸命に」は41.5%、「熱心に」は38.1%で、近い比率が見られ、少ない語彙が高い頻度で現れる副詞であることが分かる。また、出現比率の合計の近さから、両表現は類似性が高い副詞であることが言えよう。「する」動詞の前接語は、「一生懸命に」の場合、日常における行為や判断などの思考的なものが多く、「熱心に」の場合、事柄についての主張、意志、信仰などが多い。

③「独自の語」の検討の結果、「抽象的關係」部門と「人間活動」部門において、「一生懸命に」の場合、主体の物事に対する姿勢に現れる。一方、「熱心に」の場合、ある対象への働き掛けなどの行動を表す際に現れる。「自然現象」部門において、「一生懸命に」のみ「死ぬ」が現れ、主体の姿勢、心構えを表している。

④「一生懸命に」の場合、「ものすごく」「もっとも」「本当に」「あんなに」「いくら」「いつも」「とにかく」「もっと」「本当に」「あまり」「あれだけ」「あんまり」「いま」「こうやって」「すぐに」「ものすごく」が修飾し、「熱心に」は、「非常に」「とても」「あまりに」「もっとも」「大変」「かなり」「一番」「いつも」「ますます」「きわめて」「ずいぶん」「ひどく」「急に」「本当に」などが修飾している。程度副詞の修飾は、「熱心に」の方に多く現れ、事態の程度の甚だしさを増す効果をもたらしている。

今回の研究は、「一生懸命に」と「熱心に」の表現に限定したため、「一生懸命に」と意味用法に重なる部分がある「精いっぱい」や「頑張って」「力を尽くして」という表現についてまでは追求できなかったが、今後の課題にしたい。

【参考文献】

- 혼다 테즈호(2007) 『일본어다운 일본어 작문 중급』 사람in, p.122.
- 伊藤雅光(2009) 「計量語彙論から見た語彙史」 『シリーズ日本語史2語彙史』 岩波書店、pp.167-198.
- 国立国語研究所(編)(2004) 『分類語彙表 増補改訂版』 (株)大日本図書、pp.33-362.
- 姜昞完(2014) 「NLBを用いた類語調査の例ー『やっ／ようやく／ついに／とうとう』の使い分けー」 『日本言語文化』 第29輯、韓国日本言語文化会、pp.89-109.  
(DOI :<http://dx.doi.org/10.17314/jjlc.2014.29.005>)
- 金慶恵(2007) 「日本語の表現教育と誤用ー誤用例の分析を通してー」 『日本文化研究』 第23輯、東アジア日本学会、pp.495-532.
- 田中章夫(1978) 『国語語彙論』 明治書院
- 趙恩英(2014a) 『現代日本語の類義関係にある副詞に関する計量的研究』 首都大学東京博士学位論文、首都大学東京大学院、pp.35-46.
- \_\_\_\_\_(2014b) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見られる「ついに」「とうとう」の違いについてー共起する中頻度語群の述語を中心にー」 『日本言語文化』 第29輯、韓国日本言語文化学会、pp.111-132.
- \_\_\_\_\_(2015) 「異なるジャンルにみられる類義語の違いについてー「やっ／ようやく」を例に」 『日本語学研究』 第45輯、韓国日本語学会、pp.103-120.  
(DOI :<http://dx.doi.org/10.14817/jlak.2015.45.103>)
- 鄭惠先・小池真理・船橋端貴(2009) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見られる「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしようがない」の使い分け : 日本語学習者に対する指導への応用」 『北海道大学留学生センター紀要』 第13号4-21、北海道大学留学生センター、p.8.
- 飛田良文・浅田秀子(2004) 『現代副詞用法辞典』 語文学社、pp.57-58.

논문 투고 일자 : 2019. 10. 13.
논문 심사 일자 : 2019. 11. 03.
게재 확정 일자 : 2019. 11. 06.

---

 <要旨>
 

---

 「一生懸命に」・「熱心に」の違いについて  
 - 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて-

趙恩英

本研究では、「一生懸命に」と「熱心に」の相違点について、BCCWJを用い、ジャンルにおける出現傾向から文体の違いを明らかにし、また、両表現と共起する動詞について、中頻度語群の「独自の語」の意味分布から特徴を明らかにした。今回の検討で明らかになったことは以下の通りである。

第一に、「一生懸命に」の方が「熱心に」より話し言葉的である。第二に、両表現と共起する動詞は「する」が最も多く、「一生懸命に」は「やる、はたらく、がんばる、なる、いきる、かんがえる」順に現れ、「熱心に」は「とりくむ、きく、よむ、なる、やる、すすめる」順に現れた。共通的に現れた動詞は「する」「やる」「なる」「とりくむ」などである。これらの共通の動詞の出現比率の合計は「一生懸命に」が41.5%、「熱心に」が38.1%である。「する」動詞の前接語は、「一生懸命に」は日常における行為や判断などの思考的なもの、「熱心に」は事柄についての主張、意志、信仰などが多い。第三に、「独自の語」は、「抽象的關係」・「人間活動」部門において、「一生懸命に」は主体の物事に対する姿勢に現れ、「熱心に」は、ある対象への働き掛けなどの行動を表す際に現れる。「自然現象」部門は「一生懸命に」のみ現れ、主体の物事に対する姿勢、心構えを表している。第四に、程度副詞の修飾は、「熱心に」の方に程度副詞が多く現れ、事態の程度の甚だしさを増す効果をもたらしている。

 Study of the difference between *issyoukenmei-ni* and *nessin-ni*  
 -using the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese-

Cho, Eun-Young

This study examines the differences between *issyoukenmei-ni* and *nessin-ni*. It first extracts examples from the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ) and then investigates the differences in the words appearing within them. In addition, the characteristics of the semantic distribution of medium-frequency verbs are identified for the verbs of the two expressions. ① Based on an examination by genre and as used in dialogues in literature, *issyoukenmei-ni* is more colloquial than *nessin-ni*. ② Analysis of the words collocating with the verb 'suru' which are common with both expressions, finds that *issyoukenmei-ni* is used for acts and judgments in daily life, whereas *nessin-ni* is prominent in expressions of argument, determination, and belief. ③ The review of medium-frequency verbs regarding abstract relations and human activities shows that *issyoukenmei-ni* indicates the attitude or mindset of a speaker, whereas *nessin-ni* expresses a behavior towards an object. In terms of natural phenomena, only *issyoukenmei-ni* accompanies 'sinu', which appears only to express a speaker's attitude and mindset toward the situation of the speaker. ④ *Nessin-ni* occurs with adverbs of degree at a higher frequency than does *issyoukenmei-ni*, and in most cases, it expresses the increasing gravity of a phenomenon.